北海道室蘭市における居場所づくり

北海道室蘭市　特定非営利活動法人くるくるネット

平成16年5月、特定非営利活動法人くるくるネット（以下法人）を北海道室蘭市にて設立しました。設立時は「地域情報化（ＩＣＴ）で街を元気にしたい」と、ＩＴ講習等を行っていました。

平成23年より求職者支援職業訓練事業（以下求職者支援）をはじめました。求職者支援は、ハローワークの委託で、求職中の方にＰＣ訓練を行い、就職をサポートする事業です。同事業では、様々な方々と接しました。例えば、①引きこもり、②生活保護を受給中、③精神的な病を抱えている、④発達障害、⑤自覚症状はないが生きづらさを抱えている大人。令和5年現在も求職者支援は続けていますが、対応に苦慮しました。前述の方々は、問題的な対応として①遅刻と欠席を繰り返す、②学習モラルが低い、③訓練生同士のトラブル、④自己肯定感が低く、訓練が終わった後は就職活動をしない・・・等。試行錯誤しながら対応しています（相談員の配置等）が、根本的な対応策は見つかっていません。「求職者支援」を続けるうちに、より若年世代の支援が必要だと思い至りました。

令和2年、定款を変更し、求職者支援に加えて、居場所事業（以下居場所）、放課後等デイサービス事業（以下放デイ）を開始しました。理由は、①地域情報化が概ね市内を網羅できたこと、②職業訓練のノウハウを生かして放デイと居場所を新規事業ではじめることで困っている子どもや親御さんを支援したいからです。

室蘭市は、最盛期18万人の人口を擁していました。令和2年には8万人となり、学校の統廃合や過疎化が進んでいます。その中で子どもや大人に割ける行政予算も下がっています。

みんなで外で遊んでいます

今日の予定を話し合っています

学習支援の様子

「孤立化に対して居場所『クルハウス』を開設し、孤立化で悩んでいたり、苦しんでいる子どもや大人にいろいろな支援を行い、孤立化という社会問題を解決して行きたい」

室蘭市には、常設型の居場所がなかったので、孤立化する子どもや大人に対して、居場所「クルハウス」を立ち上げました。

「クルハウス」は、社会的な孤立の解消や学習面でのサポートを行っております。令和2年の「休眠預金活用事業」に採択されました。平日の放課後や土曜日に月15回開所しています。令和3年9月より子ども食堂を開始しました。利用者から「勉強がわかるようになった」「一緒に遊んで楽しい」「みんなで食べるごはんがおいしい」とうれしい声もあります。不登校の生徒も来所するようになりました。一緒に勉強したり、遊んだりしています。

事業には、「生みの苦しみ」「育てる喜び」があります。振り返って全てが順風満帆に進んだわけではありませんが、多くの方の協力があり、今日まで事業ができています。0(ゼロ)～1を1～2を作ることで、様々な経験がありました。

特に印象的だったことは①不登校児の来所、②お泊り会の開催です

①不登校児は室蘭市でも増加傾向にあり、受け皿としては、公的機関の「くじらん教室」があります。「クルハウス」にも、子どもが不登校で家に引きこもっているという問い合わせがあり、支援機関として対応しました。居場所に何回か来るうちに、当初は無口だった子どもたちがいろいろと話すようになりました。昼夜逆転や学習面の遅れが気になるようで、学習面は、プリント等は配布されるが、自学自習は難しいということがわかりました。また、生活のリズムを作ることの難しさを実感しました。昼夜逆転は、一時期改善したもののゲームやスマホ等の影響で昼夜逆転生活に戻ってしまい居場所に来ることができなくなってしまう子どももいました。

②コロナ禍で長期休みに経験や体験が難しい子どものために1泊2日でお泊り会を開催

子ども食堂の様子です①

夏のお泊まり会の様子。バーベキューをしました

子ども食堂の様子です②

しました。お泊り会では自由に過ごすという形で、子どもたちは大学生のスタッフと一緒に遊んだり・勉強したりとほのぼのしたお泊り会を想定していましたが、中には、居場所内を走り回ったり、夜なかなか眠れないという子どももいました。

これからは「居場所」をより発展させて、「室蘭」の子どもの社会的な孤立を時間をかけて解消していき、子どもたちの健全な成長に寄与していきます。運営に必要な「人」「物」「資金」「情報」等について、「人」は、施設管理者1名・相談員1名・近隣の室蘭工業大学の学生の有償ボランティアスタッフ体制（6名・シフト制）を確立し、利用者に手厚く目が届くような体制を作ります。「物」は、勉強できる環境・くつろぐことができる環境を整備・コロナ禍でも安心安全な環境を整えます。「資金」は、ファンドレイジング専門チームを立ち上げて、現状・課題を分析し、各財団や企業の意図に沿うような形で事業提案、事業実施、報告等を行います。「ネットワーク」は、近隣で子ども食堂を行っている団体・社協と情報交換・連携するほか、道内・全国で居場所を行っている団体とノウハウ連携や情報交換をしていきます。

子どもたちが「安心して過ごせる居場所」を作り、親御さんたちの不安に寄り添うことができる駆け込み寺のような存在となることで、支援のラストワンマイルを埋めていきたいです。

令和5年現在は、主に毎週土曜日に子ども食堂と居場所を開催しています。日本財団「子ども第三の居場所」事業に採択されました。土曜日は午前10時から午後2時まで約20名の子どもと約10名のスタッフでわいわいがやがやにぎやかに活動しています。単に子ども食堂として、食事を提供するだけでなく、前後に遊びの時間を入れています。遊びは食事までは自由時間とし各々が自由に遊んでいます。ゲーム機を持ち込んで遊ぶ子どもも多いです。その後は希望者のみ「みんなで遊ぶ」として、冬期は鬼ごっこやかくれんぼ、春～夏はドッジボールなどをしています。また、勉強したい要望には「学習支援」もしています。

8月までの活動の中で特に印象的だったのは夏休み中のお泊り会でした。お泊り会では、バーベキューを行い、テント宿泊を行いました。テント宿泊では、友だち同士なかなか夜寝付けない子どもが大勢いました。「また来たい」と言ってくれる子どももいました。

最後に、くるくるネットでは、クルハウスの情報発信をほぼ毎日しています。ぜひ「クルハウス」で検索してください。

（特定非営利活動法人くるくるネット
理事長　鳥山晃）